



令和6年度教育課程研究集会 中学校 外国語

外国語の指導における 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた 授業改善について

令和6年8月
奈良県教育委員会事務局
義務教育課 教育統計係
指導主事 島田 浩司

学習指導要領の改訂に込められた思い

これからの時代 … 予測が困難な時代

生産年齢人口の減少

グローバル化の進展

絶え間ない技術革新

等

学校教育に求められていること

- ・様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくこと
- ・様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと
- ・複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすること

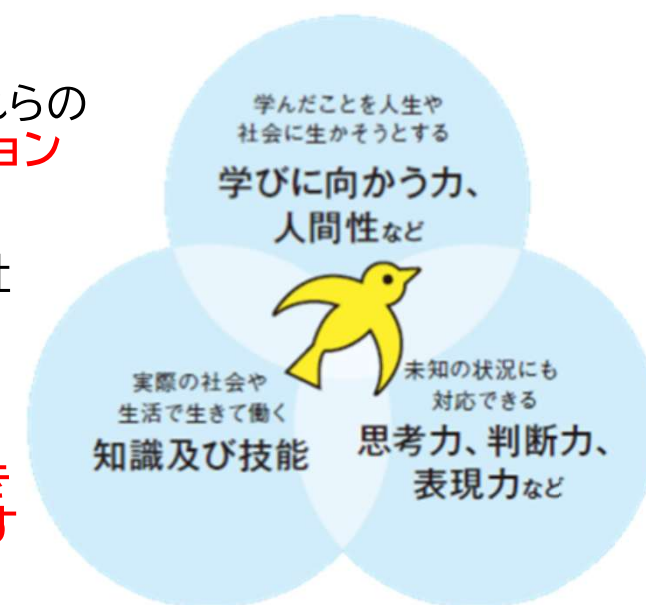
中学校 外国語の目標

中学校学習指導要領 第2章 第9節 外国語

第1 目 標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、**外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して**、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりする**コミュニケーションを図る資質・能力**を次のとおり育成することを目指す。

- (1) **外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能**を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う**目的や場面、状況などに応じて**、日常的な話題や社会的な話題について、**外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることが**できる力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、**聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度**を養う。



このような資質・能力をはぐくむため、各学校で子どもたちがどのように学ぶのか(主体的・対話的で深い学び)が重要となっている。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善について

どのように学ぶか

五つの領域別の言語活動及び 統合的な言語活動を通した指導を行う

- 具体的な課題等を設定し、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、語彙や表現等の知識を五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図る
- 授業は英語で行い（中・高）、授業を実際のコミュニケーションの場面とする
- 文法の用語や用法の説明に偏らず、言語活動と効果的に関連付けて指導



主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善について

どのように学ぶか

五つの領域別の言語活動及び 統合的な言語活動を通した指導を行う

言語活動は、「**実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなど**」の活動を基本とする。

『中学校学習指導要領解説外国語編』p.85

言語活動を行う際は、**単に繰り返し活動を行うのではなく**、生徒が言語活動の目的や言語の使用場面を意識して行うことができるよう、**具体的な課題等を設定し、その目的を達成するために、必要な言語材料を取捨選択して活用できるようにすることが必要である。**

『中学校学習指導要領解説外国語編』p.55

どのように学ぶか

五つの領域別の言語活動及び 統合的な言語活動を通した指導を行う

- 具体的な課題等を設定し、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、語彙や表現等の知識を五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図る
- 授業は英語で行い（中・高）、授業を実際のコミュニケーションの場面とする
- 文法の用語や用法の説明に偏らず、言語活動と効果的に関連付けて指導



どのように学ぶか

五つの領域別の言語活動及び 統合的な言語活動を通した指導を行う

- 具体的な課題等を設定し、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、語彙や表現等の知識を五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図る

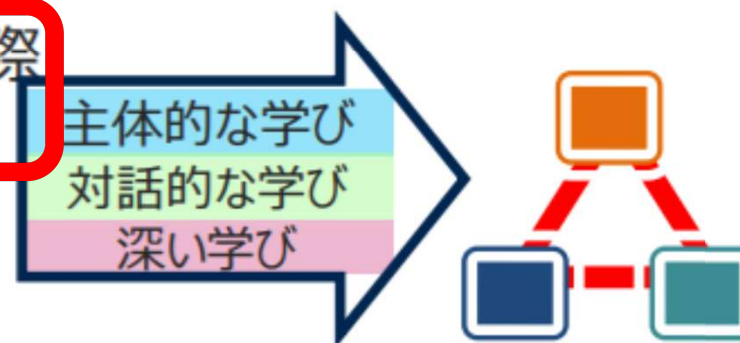
「具体的な課題等」の解決に向け、実際に英語を用いた言語活動の中で思考・判断・表現することを繰り返すことを通じて知識及び技能が習得され、学習内容の理解が深まり、学習に対する意欲が高まるなど、三つの資質・能力が相互に関係し合いながら育成される必要がある。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善について

どのように学ぶか

五つの領域別の言語活動及び 統合的な言語活動を通した指導を行う

- 具体的な課題等を設定し、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、語彙や表現等の知識を五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図る
- 授業は英語で行い（中・高）、授業を実際のコミュニケーションの場面とする
- 文法の用語や用法の説明に偏らず、言語活動と効果的に関連付けて指導



主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善について

どのように学ぶか

五つの領域別の言語活動及び 統合的な言語活動を通した指導を行う

- 具体的な課題等を設定し、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、語彙や表現等の知識を五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図る
- 授業は英語で行い（中・高）、授業を実際のコミュニケーションの場面とする

主体的な学び

対話的な学び



生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、**授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。**その際、**生徒の理解の程度に応じた英語を用いる**ようにすること。

『中学校学習指導要領解説外国語編』p.86

どのように学ぶか

五つの領域別の言語活動及び 統合的な言語活動を通した指導を行う

- 具体的な課題等を設定し、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、語彙や表現等の知識を五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図る
- 授業は英語で行い（中・高）、授業を実際のコミュニケーションの場面とする
- 文法の用語や用法の説明に偏らず、言語活動と効果的に関連付けて指導



どのように学ぶか

五つの領域別の言語活動及び 統合的な言語活動を通した指導を行う

- 具体的な課題等を設定し、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、語彙や表現等の知識を五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図る
- 授業は英語で行い（中・高）、授業を実際のコミュニケーションの場面とする
- 文法の用語や用法の説明に偏らず、言語活動と効果的に関連付けて指導

